



## 学び続ける先生方と共に

令和七年度が終わろうとしています。各校では、卒業式が行われました。私もある小学校の卒業式に出席しました。巣立つ子どもたちのとても堂々とした姿から、六年間の学びの成果を感じ、これからの活躍が楽しみになりました。

総合教育センターでは、今年度も、ちがいを豊かさにつなげる「カラフルな教育」を大切に、各種取組を実施してきました。その中で、ラーニング・コミュニティの推進として、先生方の自主的な研究を支援するグループLab・C(ラボ・シー)などに力を入れてきました。これは、同じ課題意識をもった先生方が、学校を越えて一緒に学び合う制度です。はじめは小さな輪だったものが、徐々に広がりを見せてきています。いくつか新しいグループも生まれました。また、自身の授業を、積極的に公開してくださる先生もおられます。

先日、ある中学校に授業をみに行きました。そこでは、三教科合同で、自己調整学習を進めていました。共通の最終課題に對して、子どもが自分で今日の目標を決め、自分で何をするかを計画して学習を進めていました。教室の中で教師は学びのサポート役で、学びの主体は子どもです。一人ひとりが真剣に学びに向き合う姿が見られました。「カラフルな教育」がめざす子どもの姿の一つであると思います。

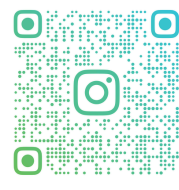
今、伊丹市の先生方は、子どもたちのWell-beingのため、授業改善に真剣に取り組んでおられます。総合教育センターは、そんな先生方を今後も全力で応援し続けていきたいと思ひます。

総合教育センター所長

戸田 征男

## 共に北極星を見上げ、そこから教室を変えるために

「ちがいを豊かさ」——その価値が、教室の学びを確かに深めてきました。ちがいを認め合う学びが、先生と子どもを力を引き出し、実践の輪が広がりました。来年度も、センターは「実践が続く仕組み」を先生方とつくりたいと思ひます。



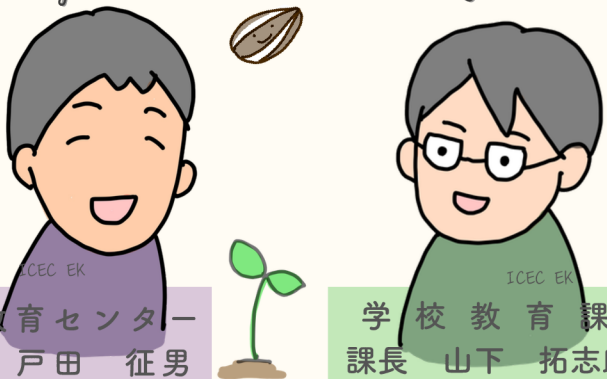
### ①この一年、感じた子ども姿の変化は？

**戸田** 楽しそうに授業を受けている子どもが増えたと感じています。

**山下** そうですね。子どもたちが自分で考え、判断して、学ぶ授業が見られたのでは。その背景に教師による学ぶ環境の工夫もあったのでは。

**戸田** 子どもは教室での関係や集団を通して変化していくものですよね。変化する前提に先生の変化もあったと思います。

## 対談カラフルな教育



総合教育センター  
所長 戸田 征男

学校教育課  
課長 山下 拓志郎

### ②「ちがいを豊かさに」を授業で実感する瞬間は、どんな時？

**戸田** 自分とちがう意見に対して、「なんでそう考えたの？」と聞く姿が見られたとき。

**山下** 私は、自分の考えを出しても否定されない学級や授業が実現されているとき。特に友達の意見に対し「その考え方もいいよね」などの発言や、お互いに伝えたい思いをもって身振り等、自然に身体が動いたりするときに実感します。

**戸田** 「ちがい」から理解をさらに深める授業を先生がどう意識していくかも大切ですね。

### ③来年度、先生方に大切にしてほしい「一歩目」は？

**戸田** ※①「カラフルな教育」はこれまでの一斉指導のよい部分は残しながらも、「時にはカラフルに」を考えてきましたね。

**山下** そうなんですすよね。これまでの実践の中にも、カラフルな教育が実現されている場があったと思います。そういう視点を持って「ちがいを豊かさに」という視点で三人（山下・戸田・窪田）で長く話をしました。

**戸田** 「対話」は本当に大切で、周りの先生方と授業の話をたくさんしてほしいと思います。

**山下** 特に対話の中で、教師の授業などに対する考え方、いわゆる指導観、教材観のような「観」について話し合う方がいいと思います。

**戸田** そのためにも、授業を人に見てもらおう。また、みせてもらう、ことが「一歩目」になるのかなと思います。

**山下** 授業をみんなで語れることがどれだけ貴重か。特に児童生徒観は、理論や実践に基づく多角的な理解、子どもの成長や背景も含む物語的な理解の共有等が大切だなと感じます。

**戸田** 理解の共有では、今年度は※②「カラフルな視点」を活用し、学校と協働してきました。来年度は、さらに多様な「対話」が生まれれば。

**山下** その思いで視点は手軽さや身近に見られるものを意識し、コンパクトに作成しましたよね。次年度は、もっと身近になればと思います。

**戸田** まずは先生方も、子どもと一緒に授業を楽しんでほしいですね。



総合教育センター  
窪田 えみか

### 三人の対話から生まれた「カラフルな教育」

令和6年、私は総合教育センターに配属されました。センター三十周年を迎えた同九月、授業づくりを軸に「未来につながる教室」のイメージを「カラフルな教育」として描きました。そして、その理念を「ちがいを豊かさにつなげる教育」という言葉に込めました。

「カラフルな教育」を形にする過程では、センターの先輩方と何度も語り合いました。カラフルってどういうこと？大切なことは何？―迷いながら真剣に重ねた対話は、今の私にとってかけがえのない宝物です。互いの思いや考えをつなぎ合わせるあの時間があったからこそ、今の自分の言葉や思いがあります。だからこそ、私はラーニング・コミュニティを通し、先生同士が緩やかにつながるシステムを作りたいと考え、推進しています。そして、なんのための教育かを大切に。そんな対話をめざしています。



※①カラフルな教育



※②カラフルな視点

愛護センター通信に寄稿しました。全文は二次元コードから。



# センター研修パッケージを活用しませんか？

次期学習指導要領は、学校で生まれている問いや実践を見つめ直し、どのように子どもの学びを支え、広げていくかを問うものではないでしょうか。

総合教育センターは、先生方一人ひとりが未来に希望を持ち、学び続け新たな挑戦を続けられるよう支援するためきっかけとなる研修を提案、指導主事も共に考えます。

## 1 最短30分

パッケージは1回で終わるものではなく、繰り返し実施することを想定しています。研修の詳細な解説を加えるにはさらに時間が必要になります。ニーズに応じ、60分まで延長できます。

## 2 対話中心

講義は最小限、少人数で話しながら学びます。校種や立場の「ちがい」が、学びの材料になります。

## 3 共に学ぶ

この研修は「教える・教えられる」に分かれる場ではありません。指導主事も、学びます。学校と教育行政が、同じ問いを共有することを大切にします。

## 4 自分の言葉で

「自身・自校ではどう受け止めるか」を考えます。これからの授業や校内研究につながるヒントを持ち帰ります

すでに起きている学びに、目を向ける。

### 教室の1コマから

授業・子どもの姿を起点に、日々の実践から「カラフルな視点」で授業を考えます。そこから次期学習指導要領のつながりが実感できる研修です。

日常の違和感を、問いにする。

### 学校の問いをつなぐ

学校や学校風土（文化）を起点に、判断や選択の背景にある問いを考え、次期学習指導要領の論点に近づきます。

ご相談は総合教育センターまで R8年度の研修にも！

伊丹の学校教育

・もう1度学びたいという時にパッケージ研修の活用を

※ファシリテーターに限りがあるためお早めにお声がけください



さらに1歩...! トワイライト研修(オンデマンド)

4つの講座を期間限定配信!

詳しくは学校園所あて通知または教職員向けグループウェア

の通知をご覧ください。

